東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリー・テーマ
こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

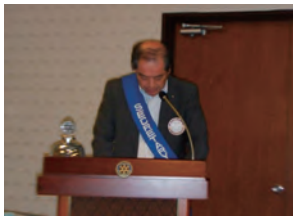
Vol.44　ガバナー公式訪問／第2185回例会　2011.9.29

今年度会長テーマ　和の心　自然に学びて未来を創ろう

ガバナー公式訪問

■クラブ協議会

■司会：野村幹事



■挨拶：小町会長

皆様おはようございます。本日はご多用の中、国際ロータリー第2580地区ガバナー水野正人(みずのまさと)様、国際ロータリー第2580地区多摩分区ガバナー補佐　栗原高明(くりはらたかあき)様、国際ロータリー第2580地区多摩分区幹事　藤野豊(ふじのゆたか)様、我が東京東村山ロータリークラブ公式訪問に、遠路のところ起こし頂きましてありがとうございます。
本年度は31名の会員でスタートしました。日本、世界において会員減少は現実です。そんな中、本日は荻野様の入会を迎える事ができうれしく思っています。今、団体から個人へ移行している社会情勢の中で、人生修練の場、活力あるクラブをどう作るか、また、未来を担う若者にお声をかけるべきロータリーの魅力を皆さんと考えていきたい。今こそ日本の気候、風土と島国の中で培われた社会構造で生活の知恵、絆を日本から学ぶべきだと思います。ロータリーの魅力とはジェネレーション、異業種の人達が親睦と奉仕を通じて与えられたチャンスを生かし修練、成長していく事だと思います。それにはこころと身体のバランスをとり家族、業の協力がなくてはできません。これからもロータリー活動ができる事に感謝し、日々の精進をしていきたいと思います。
3月のマグニチュード9、死者、行方不明者2万人の東日本大震災、原発そして相次ぐ台風で大被害が受けてます。国際ロータリーのテーマ「こころの中を見つめよう　博愛を広げるために」そしてガバナービジョン「簡素にして充実」を基に、クラブテーマを「和の心　自然に学びて未来を創ろう」掲げさせて頂きました。45周年の節目の年でもあります。これより五大奉仕委員長さんに熱き発表をしていただきます。是非、楽しいロータリーへの良きアドバイスを頂きますよう、お願いしまして挨拶とさせていただきます。

■お客様紹介：
小町会長

■ゲスト：
国際ロータリー
第2580地区ガバナー
水野正人様

■ゲスト：
国際ロータリー
第2580地区多摩分区
ガバナー補佐
栗原高明様

■ゲスト：
国際ロータリー
第2580地区多摩分区
幹事
藤野豊様

■例会日／毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場／八坂神社　社務所
〒189-0013　東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／赤木 盛一　飯田 能士
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL　042-393-7500

■中丸クラブ奉仕委員長

水野ガバナー、栗原ガバナー補佐、藤野分区幹事ようこそおいで下さいました。私は本年度クラブ奉仕委員会を仰せつかっている、中丸でございます。
クラブ奉仕はクラブの例会運営や親睦、プログラム、会員増強、週報・広報といった部分を受け持ち、いかに楽しくまた有意義な活動をロータリークラブとして実践して行く基盤を作る部門だと思います。それではクラブ奉仕部門の各委員長をご紹介いたします。例会委員長は、いつも元気な若手のホープ、巧みな司会で例会を盛り上げる石山会員。プログラム委員長は、知識豊富・経験豊富・人脈豊富でまさに適任、目時会員。クラブ管理委員長は、忙しい中でも責任感の塊、赤木会員。会員増強委員長は、実績抜群・話術を巧みに勧誘する野澤会員。会員研修委員長は、ロータリーを語らせたらクラブ一・二の論客で難しい話も易しく説明される町田会員。以上のメンバーで無能な私を盛りたてて頂いています。
さて、クラブ奉仕は言うまでもなくロータリークラブの最も重要な奉仕部門であり他の4大奉仕と同様ロータリー活動の基盤となるものです。他の奉仕部門は外へ向き、また一人でも奉仕を実践可能ですが、クラブ奉仕はそのスタンスが異なります。いかに会員が楽しく例会や親睦活動等に出席し、そして実りあるものにするかが問われるクラブの中を向いた部門だと思います。
今年度小町会長は、「和の心、自然に学びて未来を創ろう」をテーマに掲げられ、家族や仲間、地域、自然との和を大切にして会員一丸となってロータリーを運営して行こうと考えています。そして今年度は当クラブ設立45周年にあたり、45周年事業も控えています。私もこの方針に基づき、精一杯活動してまいります。
当クラブでは最も会員数が多い時は60名以上、私は入会して11年目になりますが入会時は確か50名程度の会員数だったと思います。それが現在、会員減少が進み32名となり、各委員会活動にも重複する会員が増え負担が増加し、クラブの活力を削いでいると考えます。私が入会当時は、陸上自衛隊音楽隊による音楽会を開催し市民と共に楽しんだり、今よりクラブに活力があったような気がします。会員の減少と共に活力もまた減少したと考えるのは私だけではないと思います。また現在は継続事業がないことも影響していると考えます。以前は道路のクリーンアップ作戦やロータリー杯中学生野球大会があり、特に第3回大会は西武ドームで行われ大変盛り上がりました。マンネリを心配しつつも各担当委員会は一生懸命やっていたような気がします。今年度は会員増強委員長の野澤会員が活躍され早くも荻野昇さんを勧誘し入会していただく運びとなりましたし、さらなる増員も期待できると思います。私も後方から精一杯協力してゆきたいと思います。また、今年度は4ＲＣにて小町会長と田中社会奉仕委員長の提唱で、4クラブの地域を流れる空堀川の清掃をしようということが決定しました。今後も毎年各クラブの空堀川流域において実施できれば素晴らしい奉仕活動になると思いますし、今後の継続事業になる可能性も十分あると思います。
　昨年度の地区大会でＲＩ会長代理として講演された深川純一さんは次のように述べておられました。「親睦と奉仕は一体であります。親睦のエネルギーを奉仕に変えていく、それが親睦と奉仕の調和である。これぞ正にロータリー思想の原点なのであります。親睦なくして奉仕なしなのであります。」私はこの言葉を肝に銘じて今後もロータリー活動をしてゆく所存です。ご静聴有難うございました。

■當麻職業奉仕委員長

本日は、水野ガバナー公式訪問誠にありがとうございます。

◆活動方針
職業奉仕とはロータリーの第2奉仕部門であります。
シェルドンが1902年に自らが設立したシェルドン・ビジネススクールで、20世紀の経営学の基本理念として教えていた考え方をそっくりそのままロータリーの奉仕理念として受け入れた独自の思考です。そしてロータリーが長きに渡り取り組んできた「五大奉仕部門」の第二部門、職業奉仕の原動力を生み出しています。職業奉仕を通じて、ロータリアンはすべての取引における高い倫理基準を守り、これを推進し、あらゆる有用な仕事の価値を認め、自己の職業上の専門知識や技能を社会の問題やニーズに役立てるよう期待されています。職業奉仕を推進する責務は、ロータリークラブとクラブ会員の両方にあります。また、ロータリアンは、これまで長い間、職業奉仕への取り組みの一環として高い倫理基準の実践を推進してきました。その中で生まれたのが、「四つのテスト」と「ロータリアンの職業宣言」の2つであり、職場や私生活のあらゆる場面で論理的行動を実践するための指針とします。

ロータリーの職業宣言
事業または専門職務に携わるロータリアンとして、私には以下のごとく行動することが求められている。
1.職業は奉仕の一つの機会であると考えること。
2.職業の倫理的規範、国の法律、地域社会の道徳規準に対し、名実ともに忠実であること。
3.職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において、最高度の倫理基準を推進するために全力を尽くすこと。
4.雇主、従業員、同僚、同業者、顧客、公衆、その他事業または専門職務上関係を持つ全ての人々に対し、公正であること。
5.社会に役立つ全ての仕事に対し、それに伴う名誉を認め、敬意を表すこと。
6.自己の職業上の才能を捧げて、青少年に機会を開き、他社の特別なニーズに応え、地域社会の生活の質を高めること。
7.広告に際して、また自己の事業または専門職務について人々に伝える際には、正直を貫くこと。
8.事業または専門職務上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を、同僚ロータリアンに求めたり、与えたりしないこと。

◆事業計画
1.職業奉仕月間に因んで職場見学を企画する。
2.職業奉仕の12カ条(職業奉仕月めくりカレンダー)の例会場への掲示及び唱和

私個人的には、「ミズノ」の創業者水野利八翁（水野ガバナーの祖父）の利八商法を見習いつつ日々努力しております。本日は水野ガバナーにご示峻頂ければ幸せです。

■田中社会奉仕委員長

こんにちは、水野ガバナー様、ようこそ東村山へ。楽しみにお待ちしておりました。
水野ガバナー、スポーツを通じて国際貢献され、大活躍されておられること、日本国民を代表して感謝御礼申し上げます。栗原様、藤野様お世話になっております。
本年度、社会奉仕委員長の田中と申します。委員長の器ではないのですが、小町会長さんより、声がでかいのと顔がでかいので選ばれたのではないかと思います。
副委員長に北久保会員、委員に中條会員に支えて頂き、職責を全うしようと思っています。

◆活動方針
当クラブも創立45周年を迎え、クラブテーマの「和の心　自然に学びて未来を創ろう」に沿って楽しく元気なロータリーライフ、地域と密にしたロータリー活動を行っていきたい。社会奉仕活動を通じ、地域の皆様に恩返しをしてロータリーの原点である奉仕の理想を追求し社会の発展に寄与していきます。

◆事業計画
1.産業祭への参加
当クラブでは20年以上も継続して、当市の産業祭で模擬店を出店し、多くの会員・消防少年団・交通少年団の団員にお手伝いを頂き、ロータリーのＰＲ活動、物品の販売を行いその収益金は、上記両少年団の活動資金として提供しています。
2.職場体験
少年時代から将来の目標を持つ事は大切であり、職場体験を通して職業の素晴らしさ(技術・接客等)を体験させ、目的を持った人生を切り拓く助けとする。既に会員企業にも受け入れて頂いておりますが、児童生徒が希望する職種があれば更にお願いしていきます。
3.スポーツ活動への支援
青少年のスポーツ活動を支援し、スポーツ界の発展に尽力致します。
東村山市民駅伝大会を長年支援しておりますが、中学生の部、青少年の育成の意味からも支援の方法を拡大し、協力していきます。
4.空堀川の4クラブにて合同清掃
今年度、4クラブ合同にて初めて空堀川の合同清掃活動を行います。継続していけるよう、レールを敷くことができればと思っています。
5.婚活への支援
村越会員の発案により、3月に初めて当クラブ主催による合同お見合いパーティーを企画し、地域がより一層発展できるようお手伝いしたいと思っています。
以上、大変なことばかりですが、事前準備をしっかりとし全て大成功に終わらせるようにと燃えています。

私は、5年前、55歳の時に入会をしました。当時はロータリーの事は詳しく知りませんでした。お金持ちの集まりであるとか、毎週昼間に例会をやっていて大変だよなんて聞いていました。縁あって会員の皆様と知り合い、熱心に誘われ義理で参加した例会の次の日に断りの電話を入れると決めて例会に出ました時に、米山奨学生の卓話が行われ、その中で今日あるのは東村山ロータリークラブの皆様のお陰です。中国と日本の架け橋として頑張っていきますとの卓話に感動し、その場で入会を決意しました。
入会し二年目、週報担当になり、テープを起こして原稿作り。毎週だいたい4時間位かかりました。何度も何度も聞き直して慣れない事もあり大変でした。でもその事で色々な事を勉強することができました。ロータリーは「出席」と「親睦」が大事であると。日本にロータリーが出来た時、出席も親睦もままならなかった。その時関東大震災があり、ＲＩより当時のお金で50億円の義援金が送られ、学校・病院等の再建が出来、会員の心が一つになり、大発展するきっかけになったと知りました。当時の先輩の皆様、どれ程の感動感謝されたことか目に浮かびます。先人の思いを私達後輩は共有しなくてはならないと思っています。
私が入会前後の頃、韓国から武蔵野美術大学に勉強に来ていた留学生を助ける機会があり、その事が読売新聞の夕刊に取り上げられ、韓国の二大新聞、テレビ、日本のＮＨＫラジオで取り上げられビックリしたことがありました。当然の事をしたまでと思っていましたので、韓国の皆様が日本人は冷たいと思っていたが、こんなに優しい日本人もいたのかと言って下さり、有難いことです。一番嬉しかったのは生徒さんから「恩は忘れません。回りで困っている人がいたら助けてあげられる人になりたい」との手紙を頂き感動した事です。今でも良かったなと思っています。
今、東日本大震災が起き、大変な時です。経済も不況、人口の少子高齢化。数えればキリがありません。だからこそ、ロータリークラブで何か出来ることがあるのではと。どうか水野ガバナー様にリーダーシップを発揮して頂き、ロータリークラブの「思い」「活動」を満天下に示して頂ければと思います。
東村山はスポーツが盛んな市です。新春の駅伝、当クラブも参加しＪＣと熾烈な戦いを毎年やっています。ＪＣもロータリークラブには負けるなと気合が入っているそうです。ゴルフでも今年も分区の大会で優勝しました。昨年は打倒東京クラブさんを目標に立て、昨年の地区ゴルフ大会多摩分区で初めて3位に入り、目標を達成できました。今年は優勝を目指して今から選手一同燃えています。
これからも東村山ロータリークラブは、「和の心　自然に学びて未来を創ろう」のクラブテーマに沿い、力を合わせ、灯台のように地域を明るく照らしていきます。
以上です。

■戸澤国際奉仕委員長

国際奉仕委員長の戸澤です。水野ガバナーようこそいらっしゃいました。私は先週9月19日にアメリカのシアトル、ワシントンへ玉葱の買い付けに行って、24日に帰り、26日に北海道へ玉葱の視察に行って来ました。

私は47年前の昭和37年に水野ガバナーの会社のミズノスポーツの入社試験を受けました。試験会場がお茶の水の明治大学の講堂でした、その縁か分かりませんが長男の周一が明治大学商学部卒業です。
今はマルト商事になって12年になります。来年6月に社長交代するつもりです。ミズノスポーツは合格したのですが、下宿の保証人がいなかった為、辞退して柴田産業という会社に入りました。
さて当クラブは米山奨学生韓国の朴　動浩さんをお世話しています。カウンセラーは野崎会員です。
又、オンツーバンコクですが、当クラブからは皆さん機会があれば熱心に国際大会に参加されていて、私は18年前に入会してから、シンガポール、ニューオーリンズ、大阪大会、100周年のシカゴ、ロサンゼルス、カナダのモントリオール、イギリスのバーミンガムの世界大会へ参加しています。今年度は当クラブから16名で多摩分区から3～4名の予定ですがこれから案内をして20名以上で行く予定です。
今年もぜひみんなで揃って参加したいと思います。

■村田新世代奉仕委員長

本年度より、新世代奉仕委員長を仰せつかりました村田秀雄です。副委員長に熊木敏己会員、委員に相羽正会員の３名にて今年度の活動・運営をさせて頂きます。

◆活動方針
本年度より、国際地区でも新世代奉仕が五大奉仕として取り入れられました。今日の日本は、世界的な不況の中、混沌とした時を迎えています。若い人たちの失業者が増加し、次世代に明るさはありません。その中で生き抜いていくには、より順応性のあるしっかりとした人間形成が求められています。このような時こそ「青少年の育成・向上に寄与し、国際理解と世界平和を目標」に掲げているロータリアンが「次世代を担う青少年を育てる」これが新世代奉仕委員会の使命であり、ロータリーの活動の原点であると思います。ロータリアンが18歳までの若い人を対象とし、「目的」を持った周年事業に一緒に参加するという一つの行動を起こし、若い人の目線に立つ事により意思の疎通が生まれ、達成感を共有することから感動が生まれてくると考えています。
このような考え方を基本に、新世代奉仕委員会では、「積極的に参加する」そして参加して「感動」を得られる委員会運営を考えていきます。

参加すること　＊青少年とロータリアンが共に参加する。
感動しよう　　＊人は感動することにより変わる。
＊青少年とロータリアンが感動することで共感が得られる。
＊感動を分かち合うことにより行動となって現れ、我々ですら予想しがたい将来が見えてくる。

次世代を担う青少年には「指示待ち人間」ではなく、「今自分はどうやって何をすべきか」を自ら考え、行動できる人間になってほしいと願っています。
・インターアクト
　高校に在学中の生徒または、年齢12～18歳までの青少年
・ローターアクト
　18～30歳までの青年男女の集まり

その目的は、社会奉仕、国際奉仕、専門知識の開発等の具体的な活動を通じ、青少年男女にロータリー精神を習得させ、その修練を通じて将来の地域社会の指導者を育成しようとするものです。
＊礼儀正しい挨拶の励行
＊故郷や親に対する畏敬の育成
＊感動的奉仕プロジェクトの奨励
本年度は、東村山市内の各中学生を対象に、青少年の文化・スポーツ活動を通した健全育成を45周年実行委員会と共に、企画・提案を行います。

◆事業計画
1.地域社会を支えていく、青少年を対象とした各団体に、スポーツを通して積極的に活動を支援していきます。
2.東村山市青少年対策地区連絡協議会を通じて、11/26(土)に行われる中学生クイズ大会の支援活動をする。3名1組で70組ですが、上位3組に図書券などの贈呈を考えています。
3.環境活動としての空堀川清掃に青少年の積極的参加を促します。
4.東村山ロータリークラブ45周年事業として、市内中学生による吹奏楽による演奏を予定しています。

今年度青少年のために、また我々自身の勉強のために少しでもプラスとなるよう新世代奉仕委員会と全会員で取り組んでいきたいと思います。

■講評：
水野正人ガバナー

皆さんの大変積極的な活動の計画、進捗をお伺いして、誠に頼もしく、心強く思います。
ありがとうございました。まず、会長の「和の心　自然に学びて未来を創ろう」というテーマは誠に素晴らしい。特にこの東日本大震災が起こってからは、日本人の価値観が本当に変わってきたと思います。
今日の報告者の質問の中にも、物から心に変わる時代に私達はどうあるべきかを少し問いたいということがあり、誠にそういうことでは私達は心を大事にする時代だなという風に思いました。これは、あとで例会の時にバネルジーさんのテーマもやはり心の中をみつめようという「心」が入っています。やはり世界的に人間が心を大事にしなければいけない時代にどんどんきていると思いますので、会長の方針は誠に素晴らしいです。
ちょうど45周年を迎える伝統のある東京東村山ロータリークラブとして誠にふさわしいテーマで、特に家族と仲間を大切にし、ロータリーを楽しむとは、これまたガバナーさんの基本的な「enjoyロータリー」という部分も確かに反映されています。先ほど村田新世代奉仕委員長も言われたように、若者をしっかり取り込んで育てていくというか、一緒になって伸びていくというのか、私達も若い人達を大切にしなければならない時代になったなと思います。
そんな中で、中丸クラブ奉仕委員長が、6つの委員会を束ねて動かしていかれるということで、特に深川さんのおっしゃった「親睦と奉仕」は本当にいいコールとい

うか、いい調和を持って両方がなければならないことです。言われたことを受けて、なおかつ経験から人数がいると活気が出てくるということでは野澤増強委員長、一つ宜しくお願い致します。
実は、私も各クラブを回っていて、これで44つ目のクラブ訪問になりますが、どこのクラブも増強が大きな問題であります。
それに対して色々な具体的な工夫をされているので、それを1つ紹介すれば、例えば31人であれば6つの班または5つの班が、班として誰か責任を持って1人ずつ良い人を探していくと5人になりますよね。今年は31人から36人が増員増強の目的ですから、この増強だけは委員会がありますけれども、委員は全員ということでやりましょうという風に言っています。
中には、オープン例会もあります。候補者になった皆さん一堂に集まって頂いて、いい卓話者をお願いすれば、良い卓話を聞けてこういう話を聞けるならロータリーっていい所ですねと入会のきっかけになります。そういう工夫をしています。またあるクラブでは、入ってくれた方が3ヶ月で残念ながら辞められてしまった。辞めてからよくよく振り返ってみたら、一人でポツンといらした。あの時もっと皆で寄っていって紹介等をしていれば、きっと3カ月では辞めなかったと思うという話がありました。辞めてから「しまった」ということでは、反省があります。色々なご縁で仲間になったからには、皆で紹介しあっていくことが大事かなと思います。
昨年、上野ガバナーが卓話者リストを作りました。各クラブではプログラム委員長が苦労されています。いま卓話者リストが来ていると思いますが、卓話者リストは飾っておくものではなく、この先はあの人にお願いできないかと各クラブに電話をして交流をすれば、クラブ間の交流にもなりますし、ロータリー同士なので謝礼はいりませんし、クラブの財政にも寄与するので、積極的にやって頂けたらありがたいです。
逆に言えば、東京東村山ロータリークラブにこれだけ色々な素晴らしいメンバーがいらして、知識も経験豊富な方は30分も40分もおしゃべりできますし、田中さんの人を助けた話や戸澤さんの海外に行ってこんな事があったという話など話題がたくさんありますので、このクラブからも登録をたくさんして頂きたい。2人ではもったいないので、プログラム委員長、お願いします。10人くらいは並べて頂いて、どこにでも行くということをやって頂けたら嬉しいと思いました。
クラブ奉仕委員会全員が親睦委員会でもあると思います。名称としては親睦委員会がないですが、クラブ奉仕の委員会が皆で色々なプログラムを作り、色々な理由を作っては酒の会をやって皆が仲良くなっていくという風になっていると思います。
そういう意味では、赤木クラブ管理の委員会も友をしっかりとやりますよと、石山さんはキビキビとしっかり出席をきっちりコントロールしていくということです。赤木さんも会報の担当でもありますが、町田研修委員長は友をしっかり皆に読んでもらおうと情報提供をしっかりと致しましょう。
野澤委員長、45周年を機に、本当に増えるようにお願いします。先ほど中丸さんから言われたように、人数が多い時の活気を考えたら、やはりだんだん少なくなると寂しいので、どこかで反転しなければなりません。45周年を機に反転して増える方向に持っていくことが大事だと思いました。
当麻職業奉仕委員長、本当に素晴らしい報告を頂きました。ロータリーの原点はやはり「職業奉仕」。ポールハリスがロータリーを作るきっかけが、近くの町があまりに職業道徳がなく、いられぬことをやっている中で、信頼がおけて、高い職業倫理を持った人たちと一緒に仲間になって自分達の信用ある取引を進めていこうということでした。世界に奉仕団体はたくさんありますが、その中で職業奉仕と言っているのはロータリーだけです。もちろんクラブの運営が第1ですが、ロータリーの原点が職業奉仕ということは非常に大事なことで、色々な活動を進めていくということで、そのうちの1つが12章です。
倫理観。三歩よし。売り手良し買い手良し世間良し。これがとても大事ですし、4つのテストもしっかりしたことを言っています。職業宣言あり、4つのテストあり、12章あり、三歩よしということで、我々はとても良いテキストを持っているわけですから、皆さんが自己研鑽をするのは大変大事かと思います。
田中奉仕委員長は、それこそ社会の中で色々なことをやっていこうということで、消防・交通少年団、職業体験、そしてスポーツを支援し、空堀川の合同清掃をやりましょうということと、ご本人が韓国の方を救助したということが、こんなに感動したり喜んでもらえるという経験をされました。今度はそういうことを皆とやりたいと思うきっかけになった、という素晴らしい感動的なお話を頂き、ありがとうございました。
戸澤国際委員長も、お忙しいなか、国際奉仕をずいぶん進めて頂きました。皆でバンコクへ行きましょう。宜しくお願い致します。
戸澤さんの中では、漆原さんのロータリー財団、そして野崎さんの米山委員会で朴動浩さんの面倒を皆で色々とみているということで、しっかりやって頂いています。ロータリー財団も今変わり目で、2010年～13年にかけて色々と変えていくテストをやっていきましょう、そのテストは試験地区がやりましょうということになっております。これは世界の中で100地区選んでその100地区が試験をしていますよということです。我々は2580試験地区で、今テストランの途中ですが、これがややこしいのです。簡略するというのが目的なのに、今までの方がよっぽど簡略です。パイロット地区の相方はなかなかややこしく、半分はワールドファンド、皆さんで寄付します。半分はワールドファンド、ぐるーっと回してお金を作りましょうというものですが、これは損ばかりします。そこから出るものはありません。リーマンブラザーズで損をし、やっとここにきて戻りつつありましたが、ここでまた落ちているので、きっと損しております。ですので、ワールドファンドの方はなかなか期待できません。こちらは自分達が納めたお金の半分が返ってきます。これが、地区財団活動資金というもので今までＧＤＦと言われていたものです。パイロット地区ではそれの半分になって、半分が新地区補助金、半分がグローバル補助金、これは海外とマッチングをしなさい、ただマッチングをする相手もパイロット地区でないとダメというややこしいことを言っています。これに対して、2013年に向けて我々は文句を言っていて、これではだめで、もっとこうしろと言うのが我々の任務となっております。
村田新世代奉仕委員長も色々と覇気を持ってやって頂いています。未来のリーダーである若い人をしっかりと育てていこうということでは、青少年対策の地区連絡協議会の色々な大会に協賛をして賞品を出しますよ、あるいは、色々な指示待ちの子供たちをいかに自分から積極的に動くような人間にするか、そのためには我々が若い人の目線になってやらなければならない、上から目線では彼らは受け付けないだろうという若さ溢れるお話を頂きましてありがとうございました。この新世代の中には、青少年交換樺澤委員長、そして金子会計、山本監査のお二人でお金の収支をとってみる限りバラ

ンスがしっかり取れているので本当に素晴らしい。
皆さんが本当に力を合わせて「和の心　自然に学びて未来を創ろう」をいうことを皆でやりながら45周年を機に色々なことに対して新しいきっかけを作って伸びていこうとされていることに心より敬意を覚えて講評と致します。ありがとうございました。

第2185回例会

■司会：
石山例会運営委員長

■点鐘：小町会長

■合唱：ロータリーソング
「四つのテスト」

◆ソングリーダー：
村田会員

■お客様紹介：
目時パスト会長

◆ゲスト：
国際ロータリー
2580地区ガバナー
水野正人様

◆ゲスト：
国際ロータリー
2580地区多摩分区
ガバナー補佐
栗原高明様

◆ゲスト：
国際ロータリー
2580地区多摩分区
幹事
藤野豊様

◆ビジター：
東京立川ＲＣ
豊泉幸夫様

■入会式

■入会者紹介：
村越会員

■新入会員：
荻野昇さん

■紹介者記念バッヂ贈呈

■会長報告　小町会長

■幹事報告　野村（高）幹事

■ガバナー事務所：
ロータリー財団月間（11月）卓話者の決定について
11月10日（木）
卓話者：地区補助金委員会委員　橋本恵治氏

■職業奉仕委員会、環境保全委員会：
「武蔵野・多摩分区合同クラブ職業奉仕委員会の集い」について
10月13日（木）
於　立川グランドホテル
※職業奉仕活動の取り組みについて3～5分の発表をする

■東京北ロータリークラブ：
国際ロータリー第2580地区懇親ゴルフ決勝大会の案内について
2011年11月18日（金）
於　千葉カントリークラブ　野田コース
登録料　￥10000

■国際奉仕委員会：
義援金等に関するアンケート報告の受理について

■回覧：
わが街辞典　東村山市　市民のしおり（P132広告有）
所沢中央ＲＣ週報

■唱和　野村（高）幹事

第3章
どんな職業でも有用でそれを継続することは職業奉仕だ。

■出席報告　相羽例会運営委員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
32	29	0	2	93.35

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：5名
■前々回出席率メークアップ修正後：82.76％
■前々会メークアップ者：
野崎会員：地区米山カウンセラー会

■ニコニコＢＯＸ　山宮クラブ管理委員

■皆出席：
野村（高）会員（9回目）

◆小町会長：本日は、水野正人ガバナー、栗原ガバナー補佐、藤野分区幹事、公式訪問よろしくお願いします。

◆野村幹事：水野ガバナー、栗原ガバナー補佐、藤野分区幹事、お忙しい中本日は誠にありがとうございます。

◆野崎会員：水野ガバナーはじめ地区役員の皆様、本日はご苦労様です。当クラブへの東京クラブの会員の来訪は12年前の徳増ガバナー、田崎幹事、浜口副幹事以来です。亡くなられた徳増パストガバナーが唱えられた「簡素にして充実」を水野ガバナーが再び取り上げられ敬意を表します。

◆荻野会員：水野ガバナー、東村山ロータリークラブへようこそいらっしゃいました。本日入会できましたので、ご指導宜しくお願い致します。

◆當麻会員：水野ガバナー、栗原ガバナー補佐、藤野分区幹事、本日公式訪問よろしくお願いします。楽しみにしていました。

◆山本会員：水野ガバナーようこそいらっしゃいました。本日はよろしくお願いします。栗原ガバナー補佐、藤野分区幹事、本日もよろしくお願いします。

◆中丸会員：水野ガバナー、栗原ガバナー補佐、藤野分区幹事ようこそいらっしゃいました。ご指導宜しくお願い申し上げます。

◆戸澤会員：水野ガバナー、栗原ガバナー補佐、藤野分区幹事、ようこそおいで頂きました。

◆樺澤会員：水野ガバナー様、本日はご苦労様です。よろしくご指導下さい。

◆神崎会員：水野ガバナー、本日はご苦労様です。宜しくお願いします。御身体に気をつけて頑張って下さい。

◆野村会員：本日の水野ガバナー公式訪問に感謝いたします。

本日のニコニコ合計：　59,000円
累　　計　：　343,700円

■委員長報告

■戸澤国際奉仕委員長

国際奉仕委員から報告を致します。
今回、バンコクに来年の5月2日から9日まで4泊5日で行きます。来年の5月の予約を10月20日までにまとめて下さいと言われており、それ以降になると予算が変わっ

たり問題が出るので、なるべく10月20日までなのですが、20人を超えるとそんなに問題は出ないと思います。先ほど水野ガバナーが後押しして頂きましたので、20名以上で行けると思います。では、ありがとうございました。

■卓話

■卓話者：
国際ロータリー
第2580地区ガバナー
水野正人様

皆さんこんにちは。本当に今日は東京東村山ロータリークラブに温かくお迎え頂いて、心より感謝申し上げるとともに、先程の会長・幹事さんとの懇談で、まわりの色々な歴史のお話を伺いました。日本神話で有名な、ヤマタノオロチを退治して地上に幸いをもたらした偉大な神様であるスサノヲノミコト（牛頭天王）を祀る神社である八坂神社で毎回例会をされているこの東京東村山ロータリークラブは、またこの辺りに立派な歴史的な物があることを伺いました。そして、会長方針である、「和の心、自然に学びて未来を創ろう」ということでは、本当に心を大切にして、素晴らしい姿勢の中で、特に若い人達を皆で育てていって素晴らしい未来を作ろうということで、ちょうど45周年にあたるわけですから、こういう年を一つのきっかけに皆さん各委員会が色々な事を具体的にされて、素晴らしい活動をされていることに、心より敬意を覚えました。本当にありがとうございます。
今日は立川ロータリークラブの豊泉さんが急に現れまして、びっくりしまして、心臓がおかしくなったので、今日はきちんと話せません。日本本協会で常にご出席頂いて、毎年日本オープンでは一緒に色々な協議委員をやらせて頂き、毎年楽しみにしております。
荻野さんが新しく入会されたということで、とても会員増強ということが具現化されているわけですから、まさに東京東村山ロータリークラブは皆さんで活性化に向けて努力されているということをとても頼もしく思いました。

まず、私の事でございますが、私はお坊ちゃまでありまして、當麻さんは良くご存知ですけれども、ミズノの創業者である水野利八翁を祖父として生まれました。自分がどこから生まれて、いつ生まれたか分かりませんが、生まれたらそうでした。
祖父と祖母がとても可愛がってくれ、これが欲しいと言った翌日には用意してありました。
本当に幸せな人生を歩ませていただきました、そういう意味で、祖父祖母両親兄弟みんなで楽しくやってきたことは嬉しく思っております。ロータリークラブには、大阪ロータリークラブに、祖父親父そして私は三代目として入れて頂きました。何も分からず、不良ロータリアンと呼ばれていました。そしてお前みたいな奴は東京へ行けと左遷されまして、東京へ来て、東京ロータリークラブでも相変わらず不良ロータリアンでした。私は地区のお仕事はやったことがありません。これはひどいものです。無理やり一回だけ地区の役員をやったのが、友の委員でした。私はロータリーの友は、すぐごみ箱に捨てていて、とても叱られました。皆さん、まだ覚えていると思いますが、その時はまだ小さくて捨ててもいいくらいのサイズでした。それ以降はきちんと読むようになりましたが、なかなか良いものです。そういうきっかけで実はロータリーとはこういうものなのかと少しずつ知るようになりました。ですから、私がガバナーなんて、やめて下さいと思いましたが、しかし勉強したら、私達はサポーターなのです。ロータリーはクラブの活動が全てであって、そのクラブの活動が円滑に楽しく、そして充実したものであるというのを我々がサポート致しますという役ですから、実は皆さん方が主役で私達がサポーターということになっています。

さて今年は、カルヤン・バネルジーさんというインドの最大の肥料会社の役員さんで、長らくロータリーに奉仕されている方が国際ロータリーの会長です。去年は、レイ・クリンギンスミスさんというアメリカ人でした。しかし、職業奉仕はいらないと口走り、日本のロータリーの役員さんが悟して、何を言っているのだ、世界でこんなに奉仕団体があるのに、職業奉仕を言っているのはロータリーだけなのに、それにロータリーのもともとの起源が職業奉仕、高い職業道徳を私達は持とうということで始まったものを、何を言うのだということで、事なきことを得ました。そのレイ・クリンギンスミスさんと比べると今年はインドの方ですから、東洋哲学というか「自らが変れば、世界が変わる」という事を言われており、「心の中をみつめよう、博愛を広げるために」つまり単に博愛を広げようというのではなく、まず心の中をみつめようという風に言っています。これはまず自分の心からそういうことをやらなければだめですよという意味になっております。日本では、お茶の心で、一期一会という言葉があります。私が新たに立てて差し上げるお茶が、生涯で最後のお茶ですというつもりでお茶を立てて差し上げたら、このお茶にどれだけ心がこもるでしょうか。お茶の心ながら、それは何をする時にも心を込めて、これが最後だというのはオーバーですが、そのつもりで一生懸命やれば、どんなに違いがあるか、どんなに心がこもるかということをこの一期一会という言葉は言っているのだと思います。このバネルジー会長の、「心の中をみつめよう、博愛を広げるために」も同じだと思います。私は好きな言葉を言えと言われたら、一期一会とよく言いますが、それを実行しなければならないから、何をやる時も自分の出来る限りのことをやりたいと思って、いつもやっています。

バネルジーさんは、三つの強調事項を言っています。一つは家族、一つは継続、一つは変化です。東京東村山ロータリークラブの会長のお話の中でも家族という言葉が出ています。仲間という言葉が出ています。人々が集まって作っているこの社会の中で何が最小単位ですかというと、家族です。私達はお父さんお母さんから生まれてきました。小さい時から育ててもらいました。そして成長しました。何かのご縁で配偶者と巡り合いました。そして夫婦になりました。そして子供が生まれました。子供を育てます。その家族が良い家族でなければ、どうして私達は社会の中で奉仕するなんていうことが出来るのでしょうか。やはり良い家族を作りましょうということが１番です。
２つ目は継続です。皆さん良い事をやっています。素晴らしいです。この東京東村山ロータリークラブに寄せて頂き、各委員長さんから各委員会の活動報告を聞きました。素晴らしい事をやっています。それが良い事なら続けましょう。空掘川をみんなで綺麗にしよう、これが色々な事で発展しながらまた川が綺麗になっていきます。
しかし、３つ目に変化と言われています。ポール・ハリスがロータリーを作った時、まだまだロータリゼーションがなかった１９２９年、１９３０年にアメリカで世界大恐慌が起こったけれども、それが日本に伝わるまでに一週間かかりました。信じられないです。アメリアで株が大暴落したという事を日本は全然知らなかった。こんな時代もあったのです。
今や、何でもニュースになり、それからロータリゼーションもずっと進んでまいりました。色々な事がありました。戦争もありました。今はどうでしょう。環境が随分悪くなって、色んな意味で社会が大きく変わってきました。その時にロータリーが今のままで良いでしょうか。日本では、13万人いたロータリアンが今は8万8千人です。この2580地区では、5千人いらっしゃったのが今は3千人強です。今日、１人増えました。でも現在6割です。これはロータリーの特殊性で、ロータリーは１年任期で、ずっと変わっていき

ます。去年と同じ事をやれば同じ事がずっと続き、退化なく過ぎるということが何年も続いて、ちょうど5千人いた時と同じことをやっていたら、それを3千人でやると無理がかかってきます。ですから、やはり我々は周りをよくみて、変化しなければならないのではということをバネルジーさんは言っています。

私はガバナーをやれと言われた時は、致し方なく頑張りますと言いましたが、まず何をしたらいいのかということで、徳増須磨夫さんがガバナーで、岡崎さんが幹事の時、岡崎さんに話しを聞きに行き、どうしたらいいですかと聞くと、徳増須磨夫さんの時には、「簡素にして充実」という事をやったよと言われました。それをそっくりそのまま頂きました。この時代だから、実行しなければならない。実行しなかったら単に言うだけでは誰でもできますから、やはりやる事はやろうという事で、どういう風にこのロータリーが動いているかということを見て、人頭分担金など色々な事をやっているのを見ると、これは随分無理がかかっている部分があります。委員会がたくさんあります。それは良い事だけれども、皆さんその為に随分時間的な負担があるのではないでしょうか。また、色々な金銭的な負担が多くなるのではないでしょうか。それならば、出来るだけ簡素な組織にしようということで、以前に比べると簡素な組織になりました。本来は、皆さんのお手元に毎月、ガバナー月誌が届いていました。あれはマニュアルによれば、ガバナーが地区の役員とクラブの会長・幹事に宛てたメッセージです。それを会長・幹事が読んで、そうかこのメッセージを我がクラブにあてはめるとこういう事をガバナーが言っていたんだなという事を例会でしっかりと皆さんにお伝えするというのが、ガバナー月誌の本来の目的でした。しかし良くみてみると、印刷にかなりのお金がかかっています。それならば、ＨＰにアップして、読みたい人がいつでも誰でも読めるので、印刷は止めてその代わり、本来の在り方でやって頂きたい。これで色々な負担が少し減りました。

それから、地区会議ですが、来年の2月22日(水)午後1時より、帝国ホテルで本会議を行います。当然前夜には、ＲＩの会長代理の歓迎晩餐会を少人数でやり、朝はいくつかの集いがあり、しかし本会議は午後の1時から夕刻まで行い、そして楽しい懇親会を用意しております。講演者には、金美齢さん。この方は台湾生まれですが、
本当に、国推進者と思うくらい国を思う気持ちがあって、この日本の復活に向けて我々ロータリアンは、日本人はどのように心を持つべきか、ということをお話して頂きます。充実した良い本会議にしたいと思っています。これを出来るだけ簡素にしましょうということで、今までは、2日間行ったりしていましたが、時間的に皆さんに申し訳ないので、本会議は半日です。なおかつホストクラブがありまして、ホストクラブがまた各クラブを訪問して、2月22日に来て下さいという話をすると、それでまた数百万円かかります。よって、ガバナーがセールスマンになりましょう。地区大会のセールスマンです。皆様、来年の2月22日においで下さい。東京東村山ロータリークラブは、32名全員が来て頂けるでしょうか。ある程度の人数が来て頂けるとのことなので、準備も全部しっかりできますから、そういう意味では準備万端です。
ガバナーがセールスマンをやって、きっちり簡素にすれば、それで経費を随分抑えられます。地区大会の費用も1,000円程安くなりました。人頭分担金も数千円ですが安くなりました。それから、目時プログラム委員長には、出来るだけ卓話者リストを使って頂いて、クラブ交流もしながら、他のクラブの卓話者にお願いすると、経費も安くなるということで、何とか皆さんにそういう変化を実際に実行して頂きたいです。今年は「簡素にして充実」ということをやっています。よって、バネルジーさんの「心の中をみつめよう、博愛を広げるために」という気持ちをしっかり頂いて、そして家族を大切にし、いいことは継続し、この時代の変化に対応していきましょう。そのために我々地区では、「簡素にして充実」ということをしっかり実行していこうという事で、皆さんに色々ご協力を頂いております。

先程、そういう意味ではしかし、増員も図らなければならないということで、ちょうど小町会長・野村幹事さんとの話の中で、色々な事をやっています。
紀尾井町ロータリークラブには100人くらいいましたが、減ってきて、２９人になってしまいました。これでいいのか。これでは消えるだけなので、なんとか反転攻勢をかけよう。みんなで知恵を絞ったところ、知恵が溢れ出しました。よく考えると、世の中の半分は女性です。そこで女性を増やそうという事で、12名女性が入りました。女性は女性でまた色々集めて、そういえば、若い人も集めようという事で、若い人にもアプローチして、今日もお話がありましたが、目線を下げてというか若い人の目線に合わせて、色々な話をしていく。それで若い人たちが増えました。それで現在54名ですが、なんとこの3年で100名にすると言っています。3年で100名にするにはあと50名増やさなければならないので、深刻は深刻ですが、その目標に対して皆さん各委員会で色々なアイデアを出して燃えています。これも一つの例かなと思います。皆さんも頑張って頂いて、荻野さんのように入って頂ける方を増やしていくことが大事だと思います。今年は反転攻勢の年かなと思いました。

次にお詫びと報告を致します。皆さんの中から、大変色々ご注意とお叱りを受けたのは、ロータリーはいつから日本赤十字社になったのかという事でした。3月11日にあの大震災が起きました。ガバナー会、2580地区からも、上野ガバナーがこれは大変だ、皆でこれこそきちんとやらなければという事で、義援金を集めました。直ちに10億のお金が集まりました。そのうちの1億2,300万円を、その被災地の程度に合わせてお見舞金でお渡ししました。残り8億7千万です。さぁこれをどうするか。先程も少し話が出ましたけれども、関東大震災の時にアメリカから巨額の現金が届きました。それをロータリーはどうしたか。全てそれを社会のために、孤児院を建てたり、病院を助けたり、犠牲になった警察官のグループを助けたりという事で色々な事をやりました。その例に習って、私達はロータリーらしい活動をしなければならないという事で、お父さんお母さんを亡くした災害遺児に育英制度を作って健全に育ってもらおう、将来のリーダーになってもらおうという育英制度を作ろうということになりました。もう一つは5ＦＯＲ1というもので、5つのクラブが1つの被災クラブを何とか支援するということです。例えば、被災クラブで窓ガラスが割れて灰がいっぱい入ってくる。網を張って灰を防ぐようにしたいけれども、地方自治体は何もやってくれない。よってこの網をかけるのに200万円必要ですという時、5つのクラブが、20万円ずつ出して100万円、この現金の中から100万円を出して200万にするというのが5ＦＯＲ1の一つの例です。
その二つを合わせて、これからやっていこうということになりました。ちょうど４月19日が私達の地区協議会、その会長・幹事のセッションの時に、私はちょうど終わって大変な混乱の時でしたから、「皆さんこのプログラムは時間がかかります。継続しなければならないから、ひとつ、クラブでやはり義援金を募って参りたい。今年度それを地区の方に送って下さい。」と言いましたが、それは大きな間違いでした。すなわち、ロータリーの基本はクラブの活動にあって、地区が何をするということではない。それは間違いだったということで、9月の月誌で改めて新しい公募をお願いしています。

まずはそういう事で、時間が経ち6月が来て、なかなか制度がうまく動くというところまではいきませんでした。そして7月1日、我々の年度になって、ガバナー会をやり、その時、私は上野さんから聞いていた話で、この奨学制度と5ＦＯＲ1を継続してやりましょうと言って、34人のガバナーに伝えましたら、反対、反対、異議ありの声でした。素晴らしい理想的な制度だけど、被災地は困っております。被災地は困っているから、すぐお金を下さい。自分達でロータリーらしい使い方をしてもらいたいということでした。

7月21日にもう一度集まって、今度は我々の年度の議長副議長が集まりました。どうしようかという時に、関西の一連のコメントということで、34地区で集めたお金を返してくれという意見がありました。私は怒り狂って、何を言っているんだと言いました。去年皆さんが一生懸命やったことを返せとは何事だと。しかし確かに奨学制度や育英制度はどこにそういう遺児がいるのかということが難しいので、それならば、このお金を被災地に被災程度に合わせて、配ったらどうかということを我々皆で話をしました。私は責任がありますから、上野さんに電話で相談し、返してくれというのはとんでもないが、しかしお金は被災地に配ろうと思うと伝えましたが、落ち着けと言われました。
7月末に前年度のガバナー会の議長、今年度のガバナーの議長が集まってどうしましょうという事で、その時にやはり皆が集まったので知恵が出ました。確かに返してくれというのも分からなくもないので、選択制度にしようということになりました。34地区は選択できます。一つは、返してくれというのであれば、集めたお金から見舞金で払った割合分を差し引いてお返ししますので地区で、色々な支援に使って下さい。もう一つは、この育英制度と5ＦＯＲ1をそのまま実行して下さい。もう一つは、置いておくから、それを各地区に配って下さいというこの三つのうちどれか選択して下さいという事にしました。今、金額で半分くらいが、育英制度・5ＦＯＲ1に残っています。それはそれで動くようになります。残りは返してくれというには返して、支援活動に使って下さいということです。それが去年の話です。

今年度４月19日に、会長・幹事の皆さんに、これをどうするか、地区で集まって去年の扱いをどうしますかという時に、上野議長が行われたことに私たちは敬意を表しました。昨年度分我が地区は、1億1千万円を拠出しました。10億集まったうちの1億1千万は、2580地区が納めました。それはやはりそれなりの皆さんの心だし、上野議長がこうしてリーダーシップをとられたものにしっかり入れましょうという事で、去年の1億1千万はそのまま育英制度の方にお願いしました。今年の分は、クラブの本来の活動ですから、納めて頂いたお金、あるいは今集めているお金、あるいはこれから集めていくお金に対しても三つの選択肢があります。一つは、地区で納めたけれど返して下さい。すなわち、クラブで色々な活動をするので返すということです。一つは、この育英制度は悪くないから、それにも協力したい。しかし、それは半分にして半分は返して下さい。もう一つは、割合で2割でも3割でもいいから、その育英制度のそして地区の活動に入れて下さいというものです。そういう選択制度を作りました。そこで皆さんに投げかけてどうされるかが問題ですが、皆さんの中でやっていくというのであれば、それはそれで上手くいくと思います。

今後の2月22日の地区大会は、「日本復活。ロータリーとして何ができるのか」がテーマになりますから、その時に千葉の織田さんというパストガバナーが、委員長をやって、それをしっかり動かしつつありますから、そこで色々なしっかりとした具体的な方法が出ると思います。よって、長らくロータリーが日本赤十字社でありましたけれども、少し形が付きつつあることをお詫びとご報告いたします。

という事で、私たちはロータリアンです。ロータリーは親睦をしながら奉仕をするという事で、タイのＲＩの会長さんは自分は理想的なロータリアンだと思っていました。例会には出席するし、自分は模範的なロータリアンだと思っていました。ある日、ゴルフに行こうと思ったら、この日にお父さんお母さんがいない子供を浜辺で遊ばせるプログラムがあるから、ではロータリーだから一回行ってみようという事で行きました。すると、ロータリアンが、お父さんお母さんのいない子供たちを浜辺で遊ばせていました。ふっと見たら、子供がポツンと一人でいました。自分はこの子と遊んであげようと思って、遊びました。本当に楽しい時間が過ぎました。そして、家に連れて帰ってあげ、帰ろうとした時、その子供が自分の足にしがみつき、「おじさんが僕のお父さんだったらいいのに」と言いました。その時に、体を動かして心を込めるということが、奉仕活動なのだということを自分で感じたという風に言われています。

私達ロータリアン、こうして皆さんが一生懸命に各委員会に分かれて、会長のもとに動いておられることに心より敬意を表して、この45周年が素晴らしい年になり、今後東京東村山ロータリークラブがますます発展されますことを心より祈念して、卓話とさせて頂きます。どうもありがとうございました。

■点鐘：小町会長